

2. 実践研究のねらい

めざす能勢の子ども像（4K）

- ① 多様な人と共生できる（共生のK）
- ② 誰とでも協働できる（協働のK）
- ③ 興味を形にできる（興味のK）
- ④ 郷土を意識できる（郷土のK）

能勢町には1つの町立保育所、1つの私立みどり丘幼稚園（認定こども園）がある。小中学校は、平成28年4月に6小学校2中学校を再編整備して、施設一体型小中学校「能勢ささゆり学園・能勢小学校・能勢中学校」として開校した。町内には保1、幼1、小1、中1、高1となり、能勢ささゆり学園（小学校・中学校）は平成30年4月から学校運営協議会を立ち上げてコミュニティ・スクールとしてスタートした。能勢地域の小中高一貫教育に関しては平成13年度に文部科学省「中高一貫教育の推進実践研究事業」の委託を受け、連携型中高一貫教育を開始。平成16年度から能勢高校は「総合学科」に改編。能勢地域小中高一貫教育をスタートさせる。平成22年度から府内7番目のユネスコスクールに認定。平成24年度の大阪府立学校条例の制定を契機として能勢高校を応援する「町ぐるみ応援団」設立。平成27年度に文部科学省よりスーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）の研究指定（5年間）を受ける。平成30年度より能勢高校は、府立豊中高校能勢分校として再編整備。学校運営協議会をスタートさせ、コミュニティ・スクールとなる。

能勢町立小・中学校の学校運営協議会、大阪府立能勢高校及び豊中高校能勢分校の学校運営協議会、能勢町立のせ保育所、みどり丘幼稚園、町の首長部局、町教育委員会の今ある協議体をネットワーク化し、有機的なつながりの中で、保幼小中高の育ちを保障する仕組みを実現していく。また、小・中学校と能勢高校の学校運営協議会やその組織をつなぎ、それぞれの協議体が果たす役割や効果的な運営方法・推進方法について研究することを通じて、能勢の幼児から高校生に至るまで、グローバル人材を育成するシステムを構築する。

本事業は、能勢町で育つ幼児・児童・生徒が学校と地域が協働する取組を通じて、保育所、幼稚園及び小中高の設置体の異なる学校運営協議会、また、地域学校協働本部（現在は、学校支援地域本部）が協働することで、上記のめざす能勢の子ども像（4K）に向けて人材育成を進めていくことをねらいとする。

具体的には、

- ① 保幼小中高に通う子どもたち・保護者・教職員及び地域住民が、能勢という町の保育や教育活動に参画する中で、互いに出会い、能勢で子育てする意味や価値等を学び合うこと。
- ② 5つの組織（のせ保育所・みどり丘幼稚園・能勢小学校・能勢中学校・能勢高校）が連携・協働し、校種間・異年齢集団で、確かな学び、豊かな心、健やかな体を育む活動を通して、幼児から高校生まで、つながりを意識した効果的な教育課程の実施を図っていくこと。
- ③ 子どもたちと大人たちが、共に育ち合い、響き合う関係を築き、住みよい能勢のまちづくりの担い手になっていくこと。